

子ヲ與へ、數旬ニシテ熱解シ、咳止ミ、精氣大ニ復シ、分婉常ノ如シ、

〔時還讀我書<sup>上</sup>〕青木侃齋ノ説ニ、鰻鱺ハヨク脾胃ノ運化ヲ健ニスルモノ也、眼病神水ノシマリアシク、瞳子ノ散セントスルヲ治スルニ、鰻鱺ヨリ善ナルハナシ、審視瑤函ニ、神水不足ハ雷ニ腎虛ノミナラズ、胃虛ヨリ來モノ多トイヘルハ、信ニ然リ、馬島流ノウナギ藥トテ、車前子一斤、使君子五兩、蕪荑人二兩、肉豆蔻三兩ヲ黒燒ニシテ丸トナシ、毎夜臨臥ニ鰻ト同食セシムル方アリ、脾虛ノ眼病ニハ、妙劑也、蕪荑ヲ去テ散藥トナシ、蒲燒へ糝シテ食ハシム、尤妙也、每小串一、二本ヅ、脾瘕ニモ亦効アリ、車前子ノ濕熱ヲ除ヲモテ主トスル也、故ニ此一味ヲ用テモ佳也ト、

〔病間長語<sup>三</sup>〕諸生ノ業ハ、眼目に係れり、病夫幼より、時に眼を患ふることあり、眼目を治するを業とする醫家に謀りしに、眼睛を保つことあたはず、數ならずして、喪明せんと云り、その時は、いまだ先母の在りしが夙に起て、鹽を以て嗽ぎ、これを吐て、掬して眼を洗べしと、訓玉へり、それより十有餘年今日に至るまで、一日も洗眼せずと云ふことなし、眼を患ることも、前に減じたり、後この方を、本草鹽の附方にて、見たることあり、

〔明良洪範續篇<sup>十三</sup>〕松平伊豆守、眼ヲ煩ハレシ時、本覺ト云ル目醫師ノ、藥ヲ用ヒラレ、段々快氣ニテ最早登城ヲモ致サルベキ時ニ、本覺ニ申サル、ハ、我等眼病大方愈タリ、去ナガラ、此寒氣外へ出候へバ、其儘涙出、又少シノ風ニモ、涙ヲ催シ候ト有ケレバ、本覺申ハ、夫ハ上ノ目ノヨク成候故、上目ハ常ニ涙グミ、寒暑ニモ、必涙洩レ候也、血氣ツヨキ故ニ、斯ノ如クニ候ト、追從心ニ申ケレドモ、萬事ハ一理也ト、豆州申サレ、扱醫ノ道ハ知ラズ候得ドモ、考フルニ、上ノ目ト云ハ涙モ出ズ、又乾モセヌガ上ノ眼タルベシ、涙ノ出ルハ、乾クヨリハ増ナルベシ、去ナガラ目ノ事ハ、格別ナリヤト申サレシカバ、本覺赤面シ、扱々御尤ト申シケル、

〔譚海<sup>九</sup>〕今時は、すべて技能の事も精密になりて、入眼、入鼻などいふ事を考へ出し、かたわなる人